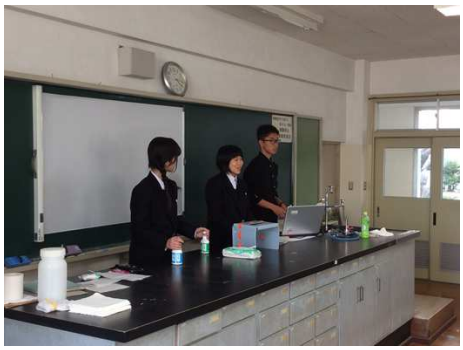
Nagasaki Higashi
Global Report
International Department
第１７号
February 24, 2016

長崎大学院生による出張講義

２月２日（火）長崎大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程リーディングプログラムに在籍する院生１８名による出張講義が行われました。１８名の院生のうち、９名が海外からの留学生（ケニア、ガーナ、ナイジェリア、バングラディシュ、ベトナム、台湾）でした。英語による自己紹介の後、マラリアや狂犬病等の感染症について、主な感染源や感染経路・年間感染者数・症状あるいは予防策について全体説明がありました。その後少人数のグループに分かれ、**様々な感染症に関する基礎知識や、海外渡航の際に必要な感染防止策について英語によるディスカッション**が行われました。参加した３８名の生徒からは、「難しい専門用語もあったけれど、院生の方が準備してくれたブックレットやパソコン等による視覚教材で理解が深まりました」「今まで知らなかった感染症について英語をとおして知識を深めることができ、今後のＳＧＨ研究に役立ちそうです」といった感想が聞かれました。同行された長崎大学言語教育研究センターの隈上先生からは「**積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒さんの姿がとても印象的でした**」とコメントしていただきました。

石鹸で防ごう！感染症

上記イベントの後、院生の協力を得て、「公衆衛生～石鹸で救える命」をＳＧＨ研究テーマとする１年６組８班の３名（山本さん、小笹さん、後藤君）が、中学３年生４０名を対象に石鹸による手洗いワークショップを行いました。指先、指の間、手首等洗い残しの多い部分にも留意した「手洗い指導」を実施し、手洗いチェッカーを用いて洗い残しを検査しました。意外にも洗い残しが多いことに参加した中学生は驚いていました。「**今後ベトナム等にも手洗い指導を広げてみたい**」と指導に当たった３名は抱負を述べていました。



↑　ワークショップのプレゼン

↑　院生さんもサポート

↑
手洗いチェッカーで洗い残しを検査